

金沢外環状道路の計画

複数回の計画変更を経た 環状道路構想

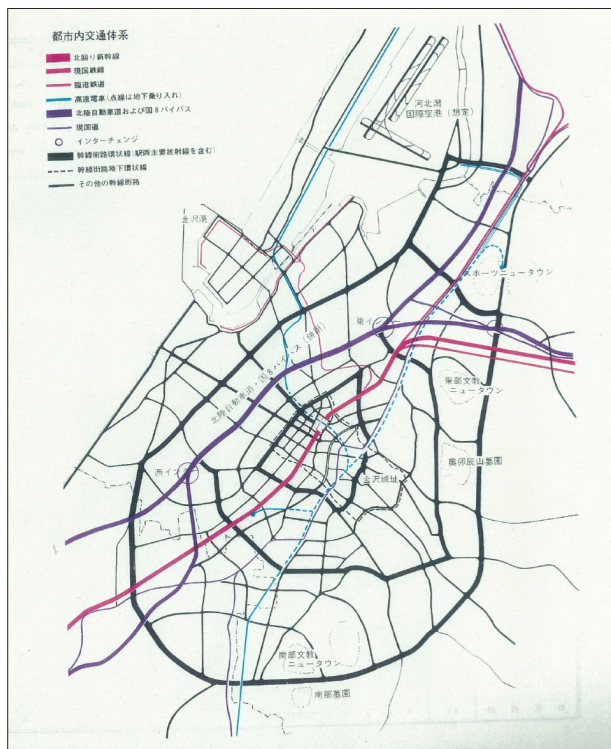
昭和 45 年に金沢市における初めての長期構想である「金沢市 60 万人都市構想」が策定され、その中で環状道路の構想が示されました。その後、複数回による各計画の策定を経て、現在の環状道路の構想が具体化していきました。

●金沢外環状道路の計画の変遷

昭和 45 年

金沢市 60 万人都市構想

昭和 45 年に策定された本構想は、金沢市における初めての長期構想であり、この当時から環状道路の概念が明確であったことがわかる資料です。

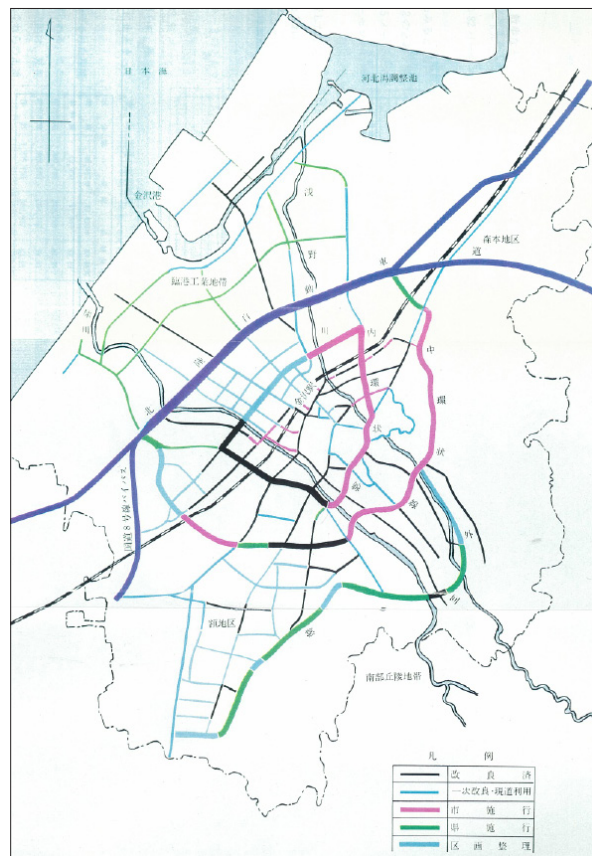


▲「金沢市 60 万人都市構想」における都市内交通体系図

昭和 49 年

金沢市新長期計画

昭和 49 年に策定された本計画では、「内環状線」「中環状線」「外回り線」との記述があるとともに、図上のルートも現在のものに近づいており、環状道路の構想が具体化されてきていることが分かります。



▲「金沢市新長期計画」における都市計画道路の整備計画図

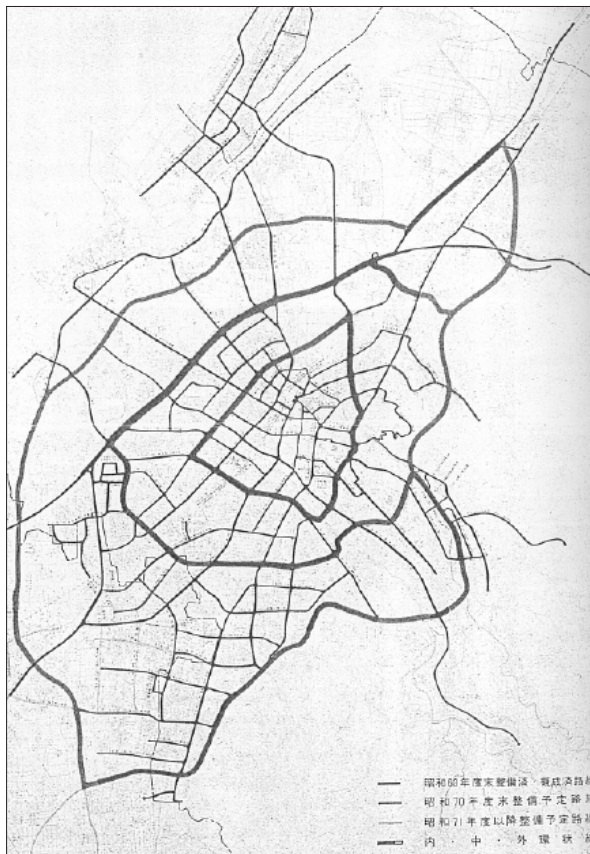


昭和61年

金沢市基本計画

(21金沢まちづくり)

山側環状のうち、都市計画が未決定であった今町～鈴見間が昭和60年7月に都市計画決定され、山側環状のルートがほぼ確定した段階の計画です。計画には、整備区間や延長が示されており、外環状道路が構想・計画段階から事業段階に入ったことがうかがえます。



▲「金沢市基本計画 (21 金沢まちづくり)」における都市内交通体系図

平成8年

金沢市新基本計画

本計画では、計画の対象期間である平成17年度までに涌波地区を除く区間を整備することが明記されています。計画を遅らせることなく、平成18年4月に涌波地区を含む全線で開通を迎えることができました。



▲「金沢市新基本計画」における都市計画道路の整備計画図